

# 歴史を伝える資料2件を市有形文化財指定

市教育委員会では、貴重な文化財の保存と活用を目的として、文化財の指定を行っています。令和4年8月31日、新たに2件を市有形文化財に指定しましたので報告します。

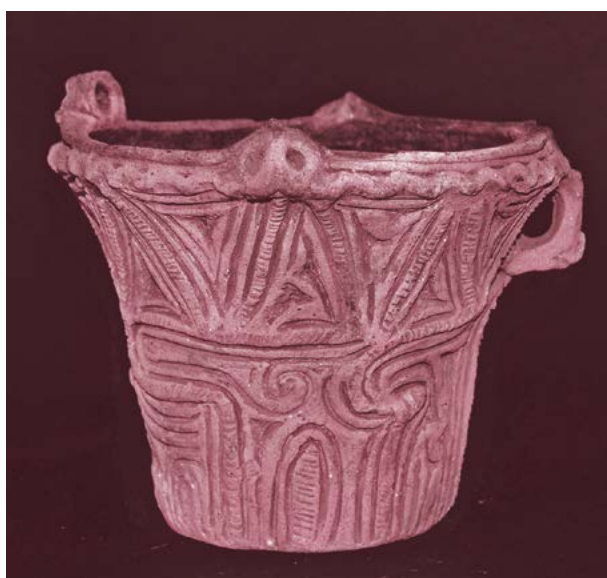
## 北陸地方との交流を示す貴重な資料

### 坪井上遺跡第182号土坑出土土器(火炎土器)

今回有形文化財に指定された土器は、火炎土器と呼ばれる燃え上がる炎をかたどったかのような独特なデザインの土器です。新潟県魚沼地方の土器と素材や作り方が共通しており、北陸地方から運ばれたものが、ほぼ完全な状態で出土した珍しい事例です。

下村田地区の坪井上遺跡では、25年前、ショッピングセンター建設に伴って発掘調査が行われ、縄文時代中期の大集落が確認されました。この土器は、この発掘調査の際に発見されたものです。

坪井上遺跡では新潟県糸魚川流域原産のヒスイで作られた大珠が8点出土していることもあり、縄文時代の常陸大宮地域と北陸地方の交流の様子を伝える資料として注目されています。



### 上岩瀬で生まれた浄土宗の名僧 通称「六夜さん」

#### 木造聖岡上人坐像

上岩瀬地区の誕生寺で所蔵する、了譽聖岡上人の坐像を指定しました。

了譽聖岡上人は、南北朝時代に現在の常陸大宮市上岩瀬に生まれ、修行を積んで那珂市瓜連の常福寺を継いだ浄土宗の名僧で、額にあった三日月形から「二十六夜尊」、通称「六夜さん」として知られています。現在でも、学問の仏様として崇敬を集めており、毎年10月ごろに常福寺で行われる祭礼は多くの人で賑わいます。

この坐像は、常陸大宮市を代表する歴史上の人物の彫像であり、江戸時代に盛んになった二十六夜尊信仰を物語る貴重な資料として、文化財指定されたものです。

